

進路室だより

3年生第1号

北海道伊達緑丘高等学校

進路指導部

平成27年5月15日

3年生となったみなさんと保護者様へ

高校3年生のGWも終了しました。運動部を続けている多くの皆さんも、いよいよ最後の大会に向けて佳境を迎えていることでしょう。ぜひ、1日も長くグラウンドに、コートに立ってられるように、持てる力の全てを注いでほしいと思います。

また、保護者の皆様におかれましては、これからの約1年間がお子様の人生の中で最も重要な時期です。ぜひともお子様の希望の進路の実現のために連携・協力していきたいと思っています。

私ども進路指導部はもちろん、学校全体としても、お子様がこれからの1年を有意義に過ごし、後悔することなく希望の進路に進めるように、精一杯支援したいと考えています。これから、進路についての情報を「進路室だより」にして配付していきますのでご参考にしていただければ幸いです。

今年度の進路指導部のスタッフは以下のとおりです。

永田 哲之（部長・3学年付・国語科）

菅原 史悦（3A担任・英語科）

金田 和実（2D担任・数学科）

戸沼 義明（1A担任・地歴公民科）

玉重 七郎（3A副担・数学科）

工藤 尋（2B副担・国語科）

土井 雅博（副部長・1C副担・数学科）

ご不明な点やお知りになりたいことなど有りましたら、どうぞ遠慮無く、部長の永田までご連絡ください。

3年生のみなさんの目標

もちろん、言わずもがなとは思いますが、みなさんの目標となるものは、自分自身の進路実現です。みなさんの保護者が今現在してくれているように、みさんもまた、自身と家族を養っていきます。そのためには、多くの費用が必要です。その費用を得るためには「働く」ことが必要です。同じ「働く」ならたくさん報酬を得られた方がよいですね。「働く」甲斐を感じられたり、「働く」こと＝やりたいことだったりすると、なお素敵なお人生が送れることでしょう。基本的には、進路実現には「勉強」が必要ですが、ここでは「挑戦する」という形に置き換えます。先ほども述べたように、今の皆さんの多くは、部活動に懸命だと思います。部活動に置き換えられると、分かりやすいと思います。その形に沿って、この1年間にしてもらいたいことをまとめます。

1 新しいことへの挑戦を試みる

新しいことをやるには勇気が必要です。新しい練習を行ったり、練習量を増やすのは苦痛だったり不安だったりします。いままでどおりの練習スタイル・練習量でも何とかかなっているかもしれませんが、どんなスキルも陳腐化します。たとえば、今の形のスマホが発売されたのはわずか5年前です。それまで、多くの人がガラケーを使っていました。誰も使ったことがないスマホが発売して本当に売れるのか。み

なさんの手にしているそれは、この世に生まれてわずか数年しか経っていないものなんです。今の商品に満足していると、次の製品にあっという間に食われてしまいます。練習方法も部活に対する心構えも、1年生の時と同じですか。様々なことに挑戦しているはずです。その挑戦は、この後も様々な場面で、幾度となく行う必要があります。

2 仮説を立てる

ところで、その挑戦は「とりあえずやってみよう、あとは出たところ勝負」ですか？ 次の大会にそれで臨みますか。そうではないですよね。自分たちなりの、万全の準備をしています。それは「こうすれば勝てる」という仮説に基づくものです。そして、その仮説は今までの経験を元に「修正された仮説」のはずです。

要するに、仮説を立てて実行する。実行したことを評価して、再度仮説を立てているのです。その繰り返しで強くなるし上手くなるのです。練習試合はなんのためのものか考えたことがありますか。ただゲームをしているのではないのです。

模擬試験を受けたり、これから受ける人がいると思います。結果が出るような努力をしていければ、良い結果は出ません。練習しない選手が勝てないのと同じです。模試の結果を見て、自分のやっていることを評価をして、また仮説を立てて実行していきましょう。

3 オールラウンドプレイヤーを目指す

オールラウンドプレイヤーとは、スポーツで、どのポジション・役割でもこなせる選手のことです。一つのポジションしかできない選手より、複数ポジションできる選手の方がレギュラーの座は近いし、試合に出られます。限られた練習時間と体力しか無いわけですから、一つのことだけにできるだけ絞りで、完璧に仕上げる方が良いのは当然です。しかし、それはすべきことがほぼ完全に正しいと分かっているときに取るべき手段であり、環境変化が激しいときには行うべきではないです。

みなさんの受験までは、まだ数ヶ月あります。高体連の大会と異なり、まだいくらかの時間的余裕があります。みなさんの進路に対する気持ちや考えは、この後いくらかでも変化する可能性があります。むしろ、変化しない方がおかしいのです。自分の進路に向けて努力を続けると、みなさんの内面が変化するからです。「こうした方がいいのではないか」「こちらのほうが行くべき道なのではないか」と気持ちが揺れるのです。そのとき、「あの科目を勉強しておけばよかった」「あの学校のあの学科のオープンキャンパスにも行けばよかった」と後悔しないためにも、今は手広く様々なことに挑戦しておくことが大切です。

4 人を巻き込む

団体競技はもちろん、個人技が求められる競技でも、練習は一人だけではできません。もちろん、一人でこつこつやれることもあります。しかし、それだけでは限界があります。なぜなら、一人でやっていると、視野が狭くなり、独善的な思考になりがちです。手を抜いても怒られません。それで本当に力がついたのか、勝てるのか、分からないのです。

経験が浅く、どうやっていいか分からない人ほど、周りの力を使うべきです。周り協力して、お互いに励まし合うことで、もう一歩前にでる勇気が出てきます。監督、コーチ、先輩、他チームのエースといった、経験豊富で、どうやればいいのかよく分かっている人の力を使うべきなのは言うまでも無いです。未知の課題に取り組むのに不安を抱えない人はいません。そういうときに相談したり、悩みを聞いてくれたりする人が近くにいと心強いでしょう。

どうですか。こんな感じで1年間、一緒にがんばっていきませんか。一朝一夕に強いチームや選手が作れないのと同様に、進路の結果も一朝一夕には出ません。

新聞報道より抜粋～来春新卒採用増やす（27.04.28 日経）

右ページの北海道内に本社を持つ、あるいは主に北海道内を基盤にしている企業（ほとんどは上場しています）の採用計画についてです。各企業が出している数字は、大学・短大・高専、専門学校、高校の全てを含んだ採用数（来春採用予定数と今春採用実績）です。当たり前ですが、この人数のほとんどは大卒あるいは短大卒が埋めます。高卒で就職よりも大卒で就職の方がこれらの企業への就職はしやすいです。記事中にもありますが、建設業は人手不足や若手への世代交代が課題です。これら企業は高卒でも十分なチャンスがあると考えられます。

平成27年3月卒業生の進路状況（27.04.13 現在）

この春卒業した先輩達の進路状況と主な進路先です。参考にしてください。

	国公立 大学	私立 大学	短期 大学など	高等看 護学校	その他 専門学校	公務員 就職	民間 就職	浪人 その他	合計
男子	5	27	2	4	24	4	7	3	76
女子	4	15	11	10	32	2	3	3	80
合計	9	42	13	14	56	6	10	6	156

- 主な進路先: (道内外、五十音順)
- 国公立大学 北見工業大学、室蘭工業大学、北海道教育大学、釧路公立大学、札幌市立大学、秋田大学、弘前大学、長岡造形大学
- 私立大学 札幌学院大学、札幌国際大学、千歳科学技術大学、日本医療大学、日本赤十字北海道大学、北星学園大学、北翔大学、北海学園大学、北海道科学大学、北海道情報大学、北海道文教大学、北海道薬科大学、藤女子大学、酪農学園大学、九州産業大学、拓殖大学、天理大学、明星大学、文京学院大学、了徳寺大学
- 短期大学など 県立三重短期大学、国立清水海上技術短期大学校、光塩学園女子短期大学部、拓殖大学北海道短期大学部、函館短期大学、北翔大学短期大学部、北海道科学大学短期大学部、北海道武蔵女子短期大学、大谷大学短期大学部、九州大谷短期大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部
- 看護専門学校 北海道立江差高等看護学院、市立室蘭看護専門学院、王子総合病院附属看護学校、勤医協札幌看護専門学校、伊達赤十字看護専門学校、中村記念病院付属看護学校、日鋼記念看護学校、北斗保健福祉専門学校
- その他専門学校等 愛犬美容看護専門学校、池見札幌歯科衛生士専門学校、大原医療福祉専門学校、大原簿記情報専門学校、光塩学園調理製菓専門学校、札幌医療秘書福祉専門学校、札幌こども専門学校、札幌歯科衛生士専門学校、札幌スクールオブミュージック専門学校、札幌ビューティーアート専門学校、札幌ベルエポック調理製菓専門学校、札幌放送芸術専門学校、札幌幼児保育専門学校、専門学校札幌デザイナー学院、専門学校札幌マンガ・アニメ学院、日本工学院北海道専門学校、日本航空専門学校、函館歯科衛生士専門学校、北海道医薬専門学校、北海道歯科衛生士専門学校、北海道情報専門学校、北海道ハイテクノロジー専門学校、北海道美容専門学校、北海道福祉教育専門学校、京都伝統工芸大学校、音楽学校アン・ミュージック・スクール
- 公務員 伊達市役所、洞爺湖町役場、西胆振消防組合、室蘭市消防、警視庁
- 民間就職 大高酵素株式会社、株式会社登別グランドホテル、株式会社ドン・キホーテ、株式会社ナガワ、さかた歯科医院、社会福祉法人思誠会、大和旅館、日本郵便株式会社北海道支社、プライフーズ株式会社